



市政研究会 大西 克美 議員

- ①旭が丘公民館の修復について
- ②鈴鹿市土地開発公社の未利用地について
- ③消防機能の充実について

質問① 約1万人の人口を抱え、今後も人口増加が予想されるこの地区にあって、築後27年が経過し、老朽化した公民館では生涯学習の充実が図られないがどう考えるか。

答弁① 財政的に非常に厳しい状況ではあるが、利用率等を勘案し、早急に計画的に検討していきたい。

質問② 地価下落が続く中、土地先行取得の公社機能の意義は。公社の経営健全化への取り組みは。

答弁② 機動性を要する用地取得と補助枠等との整

合性を図りつつ事業化を推進していく場面では、依然、土地開発公社は有意義に機能するものと考えている。利用計画や処分などある程度の方向性が固まり次第、手法については検討の余地はあるが、損失補てんなど財政支援をする用意はある。

質問③ 女性救急救命士の育成の必要性を思うが、啓発をもっとすべきでは。災害現場の必要性により、トイレ付給湯車などの導入は考えられないか。

答弁③ 現在本市には女性救命士はいないが、リーフレットの活用や大学・高校にも紹介していきたい。トイレ付給湯車を新たに配備すると、消火活動の人員が減ることから消防車内にトイレを積載したい。



旭が丘公民館



すずか倶楽部 南条 雄士 議員

- ①職員懲戒処分基準の改定について
- ②(①に関連して)依存症について

質問① 11月1日に職員懲戒処分基準が改定され、飲酒運転等に関する処分が厳罰化となった。市民の安全のためには模範的な取り組みで、大いに評価できるが、『報告義務』の合憲性については解釈が分かっている。市の見解はいかに。

答弁① 職員に制度説明の機会を確保し十分な周知徹底を行った上で、業務上必要な範囲で理由を明確にして制度化すれば、職員は制度を遵守する必要があり、憲法上の問題は無いと解釈している。

質問② 平成14年の道路交通法改正による飲酒運転厳罰化以降も、飲酒運転による事故が後を絶たない。飲酒運転の根本原因にはアルコール依存症が関連しており、依存症患者の半数が厳罰化後も飲酒運転を続けているという調査結果も発表された。飲酒人口の26人に1人が依存症で、14人に1人が依存症予備軍であると言われているなか、問題の根本解決には厳罰化だけでは不十分で、依存症の早期発見と治療が必要であると考えているが、市の見解はいかに。

答弁② 飲酒運転撲滅のためには依存症予備軍の早期発見と治療が必要であると認識を新たにした。依存症という病気の理解と認識を深めるための啓発活動に関する検討を行うとともに飲酒運転の撲滅に全力をあげる。



すずか倶楽部 後藤 光雄 議員

- ①市民サービスについて
 - (1)目にみえる公共工事の経費表示について
 - (2)市職員の座席表の表示について
- ②安全・安心施策について
 - (1)防災放送について
 - (2)被災時の避難所対策について

質問① 道路工事等に設置される工事案内板に、工事費用を群馬県太田市のように表示出来ないか。市役所を訪れる市民の為に、職員の座席表を表示して欲しい。

答弁① 三重県の規格では出来ないが、良いことと考えるので方法等検討する。座席表の表示は心ある

対応を指導しているので表示はしない。

質問② 大地震等の被災時に、広報車や電気に依存する方法ではなく市民に情報伝達する防災放送の一日も早い設置を望む。被災時のペットの収容、緊急避難所の状況把握、災害復旧対策等まだまだ準備不十分ではないか。

答弁② 現在使用している地域防災無線の周波数が平成23年5月末で使用できなくなるので、それまでに市内一斉に放送できる同報無線等を検討していく。順次対策を準備しており、市民には防災訓練等で説明しているが、もっと周知してゆく。



地域防災無線